

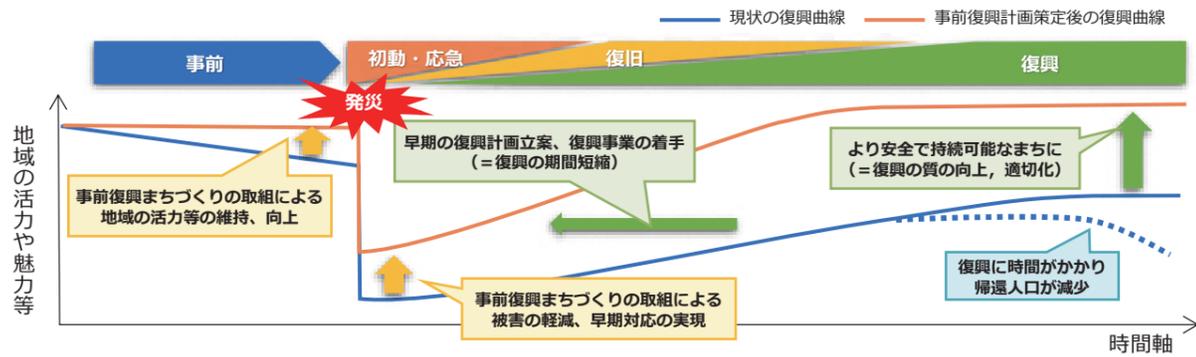
# 宇和島市事前復興計画を策定しました

南海トラフ地震が今後30年以内に発生する確率は80%程度といわれており、最大クラスの地震が発生した際には、宇和島市においても甚大な被害が生じることが想定されています。



この南海トラフ巨大地震による揺れや津波は、市民の生命を脅かし、住まいや生業を奪い去り、まちや生活の復旧・復興までに長期間を要する事態を生じさせる可能性があります。

そのため、南海トラフ巨大地震等の大規模災害が発生したとしても、適切かつ迅速・円滑な復興の実現を図るため、復興の手順や復興後のまちの姿を事前に検討・整理する宇和島市事前復興計画を策定いたしました。



## 復興まちづくりの土地利用

大規模災害が発生した際の復興まちづくりでは、現況の土地利用から大きく変わる可能性があります。市民の安全・安心の確保を前提に、地域の持続的発展を図るための土地利用を図ります。

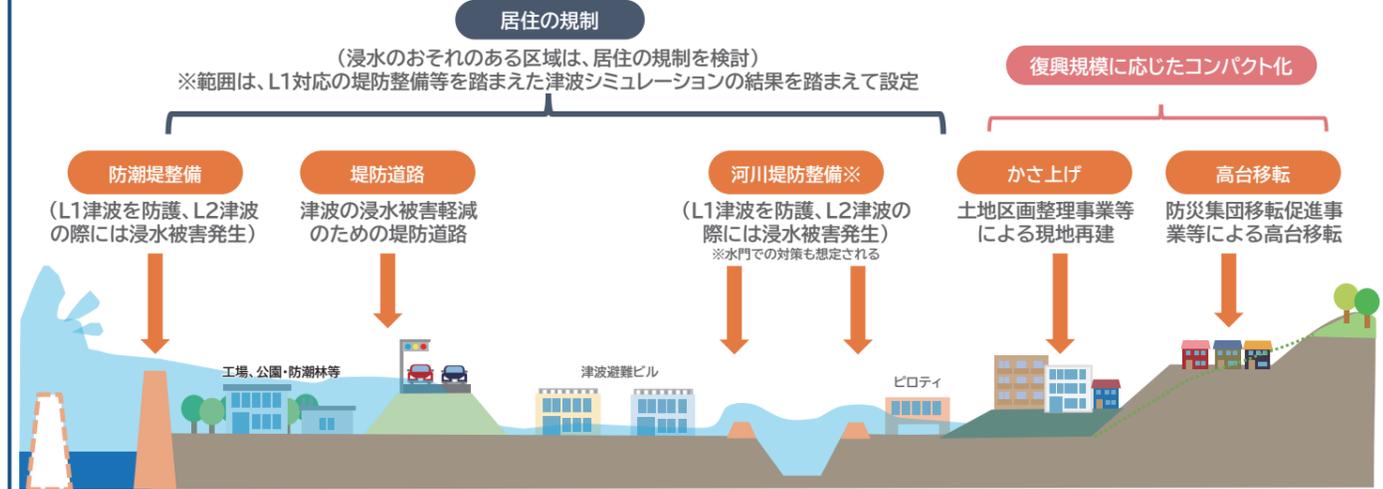


図 土地利用の考え方のイメージ

## 宇和島市事前復興計画の構成

### ■復興ビジョン編

大規模災害による被災状況を想定し、復興の目標や分野別復興方針等を検討して、法に基づく復興計画の概形を定める。

### ■復興プロセス編

災害発生後に想定される復興手順や行政組織内における役割分担、関係機関との連携及びその適切かつ迅速・円滑な復興に向けた平時からの取組等を定める。

### ■事前復興まちづくり計画

大規模災害による被災状況を想定し、著しい被害により面的な整備が必要となる市街地や集落を対象として、まちや住まいの復興方針、復興のイメージ等を定める。

## 復興ビジョン編

### 事前復興の推進における基本理念／基本目標

#### ともに未来を描き、ともに守る、安全・安心なふるさとをうわじま

未来を担う子どもたちをはじめとした地域住民と行政等がともに考え、ともに様々な取組を進めることで、大規模災害が発生したとしても安全・安心な住み続けたいまちを目指していくものとします。

<p><b>【まち】</b> これまでのまちの歩みを活かしつつ、安全・安心なまちの形成</p> <p>災害が発生したとしても命を守ることができる安全で安心して暮らせる地域づくりを実現します。</p>	<p><b>【住まい】</b> 住まいの場として選ばれ続けるために、適切な住まいの場の確保</p> <p>災害発生から復興までの期間、安全な環境で、安心して生活できる場所の確保に努め、早期の復旧・復興を地域の方と共に実現します。</p>	<p><b>【くらし】</b> 快適なくらしの場の実現に向けた生活環境の維持・向上</p> <p>災害時においても、市民の生活に欠かせない、医療、保健、福祉、子育て、教育等の維持や早期再開等を実現します。</p>	<p><b>【生業】</b> 地域経済の元気と活力を生み出す生業の維持・創出</p> <p>働く場の維持や早期復旧を図るとともに、市内産業の更なる魅力の創出により、元気と活力の維持・向上を図り、引き続き、地域に住み続けられる条件整備を実現します。</p>
---	--	--	---

## 復興まちづくりの都市構造

応急期においては、津波災害警戒区域外での安全・安心な住まいの場を確保する必要があり、生活の場所が大きく変わる可能性もあります。また、復興期においても、安全・安心な住まいの場を確保するため高台への移転やかさ上げ等を検討する必要があります。

そのため、復興まちづくりの都市構造の検討に当たっては、「応急期」と「復興期」の段階的なまちの姿を示します。

### ■応急期

応急期では、宇和島市街地や吉田中心部、津島中心部をはじめとした各地域・集落が津波による被害を受け、既存の住まいの場や商業・業務等の機能、公共施設等が喪失し、仮設住宅や仮設の施設等の確保が必要となります。

そのような中で、津波により甚大な被害を受けた地域から、津波被害を免れた地域や津波災害警戒区域外等の地域へ、住まいや商業・業務、公共施設等の機能移転を行います。

### ■復興期

大規模災害が発生した際の復興まちづくりでは、地域の持続的発展を目指し、市の中核を担う中心市街地や各生活拠点の充実等を図ります。

